

# 習志野市新 ALT を紹介します 夢は、二つの文化の懸け橋に！

コロナ禍の2021年8月、習志野市の新ALT（外国語指導助手）2名が、アメリカ・アラバマ州からやって来ました。

アレクシス・アセヴェド（Alexis Acevedo）さんとメロディ・ショー（Melodi Shaw）さん。8月末に、それぞれ第五中学校、第六中学校に着任。現在、ALTとして活躍中です。

## 大好きなオムライス作りに挑戦！

アレクシス・アセヴェドさん

「両親はテキサス州に住んでいます。（習志野市の姉妹都市タスカルーサにある）アラバマ大学を卒業しました。専攻は国際関係スタディー、副専攻は日本語、歴史、ビジネスの3つです」

「ALTを志望したのは、日本に住みたいとずっと思っていたからです。日本語を上達させたかったし、日本文化にもとても興味があるからです」

「日本の中学に来て驚いたことの一つは、アメリカでは時限ごとに生徒が教室を移動するのに、日本では先生が移動すること、それに給食がとてもおいしいことです。たまに苦手なものも出ますけれど（笑）」

「生徒たちとは、昼休みに校庭で遊んだりすることがあります。みんな、とてもフレンドリーですね。そして英語に対してとても意欲的です。シャイな子もいますが、たくさんの

子が廊下で私を呼び止めて、一生懸命英語をしゃべろうとするなど、大変積極的です」

「日本の印象は、人々がプライベートを守ろうとする文化でしょうか。アメリカではみんなフレンドリーで、誰とでも話す、というか……。また、すばらしいと思うのは自然に対する考え方や態度です。リサイクルや家庭や周辺の自然を大切にしていますよね」

「来日してから訪れた所は東京の浅草です。お寺や小さなお店がたくさん並ぶ参道などに行きました。日本の伝統的なウエディングも偶然見ました。人力車というのも（笑）。私は歴史大好き人間なので、浅草はとても面白かったです」

「趣味は、ドローイングやペインティングなど絵を描くこと。日本の美術館にもどろんどろん行ってみたいです。料理も大好きです。時間のある時は日本料理に挑戦しています。オムライス、鶏肉やサーモンの照り焼きなどです。オムライスはアメリカにはないんです。おいしくて大好きなので、頑張って作りました（笑）」

## 子供の頃、ポケモンゲームでよく遊びました

メロディ・ショーさん

「アラバマ州バーミングハムの出身です。州東部のオーバーンにあるオーバーン大学を卒

業。専攻は英文学、副専攻はアジアン・スタディーです。英文学専攻ですが、一番好きなのは世界の文学、特にインドや中東、日本の文学です。アメリカの文学とは大変異なるので、とても興味があります」

「六中の生徒たちはとても真面目ですね。と

くに素晴らしいと思うのは挨拶です。毎朝学校に行くと、みんなが互いに『おはよう！』と笑顔で挨拶しあっています。それを聞くと、とてもハッピーになります。また、英語にとっても意欲的、熱心です。生徒たちと一緒に話したりすることで、その意欲を手助けできるのはとても幸せに感じます」

「学校の給食は何が出てくるか毎日楽しみです。私はトマトがダメなのですが、ある日、トマトスープが出たんです。『オー、トマト〜！』と思いましたが、飲んだらおいしかったのでビックリ（笑）。あれだけのたくさんの品目の献立を全員に作るのは大変なことだと思います。日本の給食は本当に素晴らしいですね」

「実は日本には5年前に一度来ています。京都や軽井沢などを旅行しました。今回はまだあまり出かけていません。東京には何回か行きましたが。東京の印象？ とても大きい、とてもクリーン、とても安全（笑）！」

「趣味は歌うこととピアノを弾くことです。私の名前は「音楽のメロディー」と同じ発音。つづりの最後だけ違います。音楽のほうは「y」、私は「i」で終わる。音楽好きな父が名付けたのですが、名前のためか私も音楽が大好きです。それと書くことも好きです。ストーリーを書いたり、調査や研究したことのレポートや論文を書いたり……。あとビデオゲームも好きですね。子供の頃、ポケモンのゲームでよく遊んだことはよい思い出です（笑）」

将来の夢は、「日本語にもっと堪能になりたいです。そして、日本で知ったこと学んだことを、アメリカにいて日本やアジアについてあまり知らない人たちに知らせたいです」（アレクシスさん）。「翻訳家や通訳など、日本語の専門家になりたいです。そして、アメリカと日本の絆をより強くしていくことができれば素晴らしいと思います」（メロディさん）。そう異口同音に語るお二人でした。

8月の来日時、「乗って来た飛行機は乗客は13人でガラガラ。おかげでとてもゆったり来られました」（アレクシスさん）と笑いますが、空港での入国前の検疫は2,3時間もかかり、「結果によっては”帰国しなさい”と言われるかもしれないので、ドキドキしながら待機していました」（メロディさん）といます。

コロナ禍の困難な時代にはるばるやって来られたお二人。あらためて、Welcome to Narashino！です。（インタビュー：広報部会 佐藤洋子）



アレクシスさん(左) とメロディさん(右)